

第2章 市民が描く未来像

1 市民が描く未来像

市民が描く未来像は、市民の意見から描かれる未来の武蔵野市の姿をとりまとめ、これを「言葉と絵」で表現したものです。市民意見は、地域別ワークショップ、出張座談会、意見募集箱、既往調査により収集しました。

《 市民が描く未来像の構成 》

地域別ワークショップ (令和元年度実施)

- 第1回 吉祥寺、三鷹、武蔵境
・地域の大切な場所
・まちの未来像
- 第2回 全地域共通
・未来像の展示・発表
・未来像の共有・共感



出張座談会 (令和元年度実施)

36 団体、413 名
コミュニティセンター、市民団体、事業者等



意見募集箱 (令和元年度実施)

7 件



既往調査

市政アンケート、市民意識調査、
第六期長期計画市民ワークショップ、中高生世代広場



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)
に関する意見交換 (令和2年度実施)

地域別ワークショップ、出張座談会、意見募集箱、既往調査から描いたそれぞれの未来像は、P2-4~2-13に示すとおりです。

《 市民が描く未来像の概要 》

吉祥寺 (Aグループ)

テーマ 便利になった20年後、いかに幸福感を感じるか

- リアルなコミュニケーションが楽しいまち
- 人の役に立つと幸せなまち
- 出かけたくなるまち



吉祥寺 (Bグループ)

テーマ 生活を楽しむ こだわりのまち

- 歩く楽しみが感じられる人間味のあるまち
- 多様な世代の人が活躍しているまち
- 多様なライフスタイルを受け入れるフレキシブルなまち



吉祥寺 (Cグループ)

テーマ コミュニティに出会えるまち

- 消費にとらわれないコミュニティや仕組みがあるまち
- 旅行者が滞在したくなるまち
- 来街者のみならず、住民が住みやすいまち



三鷹 (Aグループ)

テーマ 歩いて楽しいまち

- 見て楽しい、歩いて楽しいまち
- 多様な交通手段が選択できるまち
- 資源を活かして時代に合わせた使われ方がされているまち
- 多様な人が多様なコミュニティ活動に参加するまち



三鷹 (Bグループ)

テーマ 郷土愛

- 安心・安全な道路空間がにぎわう場所をつなぐまち
- 人との交流を生み出す学びの場があるまち



武蔵境 (Aグループ)

テーマ 幸せな暮らし

- 地域コミュニティの力で幸せな暮らし
- 安心して歩ける暮らし
- 自由に働き楽しむ暮らし



武蔵境 (Bグループ)

テーマ さんぽが楽しい落ち着いたキャンパスタウン

- 散歩で選ばれるまち
- 大学生が活発に活動するキャンパスタウン
- 新技術により生まれる余剰時間を有効に使えるまち



出張座談会、意見募集箱、既往調査

- 自然環境の保全
 - 快適で暮らしやすいまち
 - にぎわいのあるまち
 - 誰とでもコミュニケーションがとれるまち
- 等



(1)地域別ワークショップの市民が描く未来像: 吉祥寺Aグループ

I 部

2 章

市民が描く未来像

市民が描く
まちの未来像

《テーマ》

吉祥寺 A グループ

“便利になった20年後、いかに幸福感を感じるか”

リアルなコミュニケーションが楽しいまち

技術革新によりどこでも誰とでもつながれる時代だからこそ、直接コミュニケーションがとれる場づくりが進んでいる

① おいしい・たのしい農業体験



- ・収穫祭、農業祭、農業体験などの おいしく・気持ちの良い体験 ができる。
- ・My農地 での自給自足が進展している。
- ・商店街でも、味覚や嗅覚で楽しむ 小さなお祭りやマルシェが 開催されている。

② 祭りの継承と新イベント開催

- ・吉祥寺秋祭り や 御神輿 が 継承されている。
- ・収穫祭や農業祭など 新たなイベント が開催されている。
- ・全国や世界の 姉妹都市とのつながりが増え、関連イベントが開催されている。
- ・音楽祭や盆踊り、ダンスなどを複合させたイベントが開催されている。

③ 全天候型に進化した公園



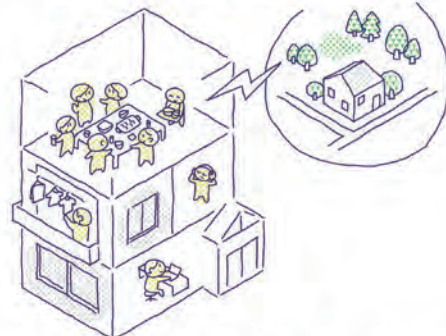
- ・井の頭公園 が 継承されている。
- ・公園が 全天候型 になっている。
- ・静かな公園 もある。

④ 未来版ハーモニカ横丁



- ・地域の文化となっている ハーモニカ横丁 が 存続している。
- ・自然光が降り注ぐ地下広場や地下街がある。
- ・地下鉄が普及している。

⑤ 2つのまちを自由に住み分け



- ・2地域居住が普及し、新しい住宅形態 が増加している。
- ・ルームシェア住宅 が コミュニケーションの場 になっている。

人の役に立つと幸せなまち

技術革新で時間に余裕が生まれることで価値観が変化する
人の役に立つことで幸せを感じるようになっていく

① ボランティアで幸福体感

- ・「ありがとう」と言われることに幸福を感じ、生きがいを感じるために進んでまちづくりのボランティア活動に取り組むまちになっている。

② 人材マッチングで労力シェア

- ・市民の中で「困っていること」と「解決できる人」をマッチングする仕組みが整備され、労力がシェアされるまちになっている。

出かけたくなるまち

家にいながら何でも出来る時代だからこそ、
つい出かけたくなる魅力づくりが進んでいる

① 幸せ感じる散歩道

- ・移動すること自体が目的になっていて、散歩するだけで幸せを感じられる ような道路空間になっている。
- ・歩行者が安心して通行できるように、自動車に時間帯規制が設けられている。
- ・歩行者・自動車が互いに 気をつけあうマナー意識が定着 している。

(2)地域別ワークショップの市民が描く未来像: 吉祥寺Bグループ

市民が描く
まちの未来像

《テーマ》

吉祥寺 B グループ

“生活を楽しむ こだわりのまち”

歩く楽しみが感じられる人間味のあるまち

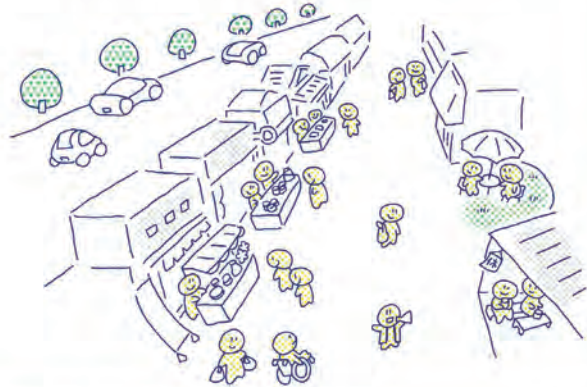
自動運転車も使えるが路地には個性的なお店が立地し、歩きたくなるまちになっている

① 個性的な店舗が残り、創出されている

- ・家賃補助 や チャレンジショップ の実施など
企業創業支援が充実し、個性的な店舗が 創出・定着
している。
- ・多種多様な店舗がひしめく、個性的な雰囲気 が残って
いる

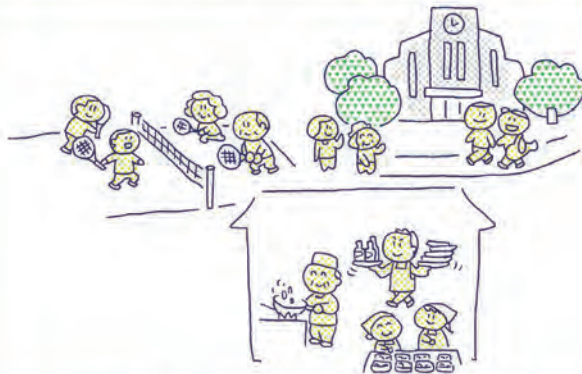
② 自動運転時代に「歩く」選択

- ・自動車交通が規制され、休憩用のベンチや芝生が
引かれており、子ども安心して遊べるなど 歩行者主体の
道路空間にリメイク されている。
- ・ヒューマンスケールの建物 で構成され、道路の両側を
見渡しながらウィンドウショッピングができる。
- ・お年寄りでも 歩きやすい歩行空間 になっている。



多様な世代の人が活躍しているまち

若者からお年寄りまで活動、活躍する場所があって誰もがいきいきとしている



① 多世代交流が活発

- ・アクティブシニア など幅広い年齢の人が
活躍する場、交流する場 があるまちになっている。

② 若者がまちなかで活躍

- ・将来のまちの担い手 である子どもがまちで遊び、
まちで学ぶなど まちと接点 を持っている。
- ・大学と連携したまちづくり が行われるようになる。

多様なライフスタイルを受け入れるフレキシブルなまち

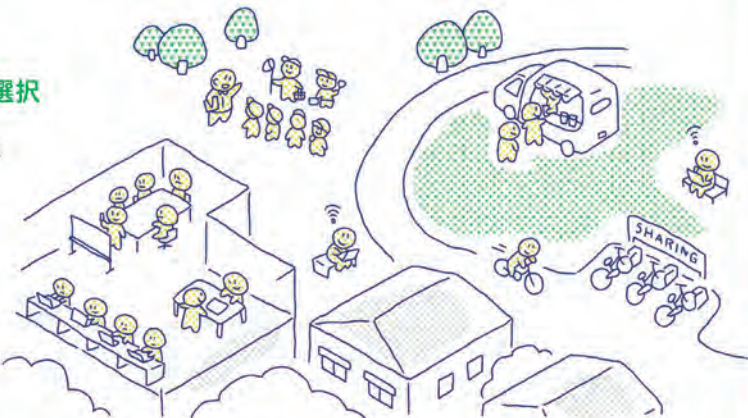
場所や制限にとらわれず、まちの中でやりたいことが自由にできるようになっている

① 活動の場所を気分次第で自由に選択

- ・住む場所、働く場所がシェア されることで、
気分によって活動場所を毎日変えられるよう
になっている。

② あらゆる活動ができる公園

- ・公園などのパブリックスペースが、活動の場
として 自由に活用ができる ようになっ
ている。
- ・公園でチャレンジショップが実施されている。



(3)地域別ワークショップの市民が描く未来像: 吉祥寺Cグループ

I 部

2 章

市民が描く未来像

市民が描く
まちの未来像

《テーマ》

吉祥寺 C グループ

“コミュニティに出会えるまち”

「消費」にとらわれないコミュニティや仕組みがあるまち
お祭りなどの地域のイベントなど、住民同士がコミュニケーションをはかる機会がある

① 住民の親睦を深めるイベント

- ・家族でも参加できるようなイベントの開催などにより「よそもの」が溶け込めるようなコミュニケーションの仕組みが成立している。
- ・住民のスキルシェアにより共助が実現している。
- ・無数に存在している地域の密なコミュニティ同士をつなぐ。



② 人のあたたかみを感じる場

- ・売り手の顔が見えるような個人商店が多く立地している。
- ・「消費行動するまち」のイメージから、「地域や人が魅力的なまち」へ。

旅行者が滞在したくなるまち

インターネットやSNSの情報を頼りに国内外から旅行者が訪れる魅力がある



① 「映える」魅力

- ・活気があるコミュニティなど地域の魅力が国内外へ情報発信されている。
- ・旅行者が思わず情報発信したくなる吉祥寺ならではの魅力が存在している。

② インバウンドを吸収

- ・市外や国外から見ても訪れたくなる魅力があるまちとなっている。
- ・ゲストハウスなど、海外からの旅行者が泊まりたいような宿泊施設がある。

来街者のみならず、住民が住みやすいまち

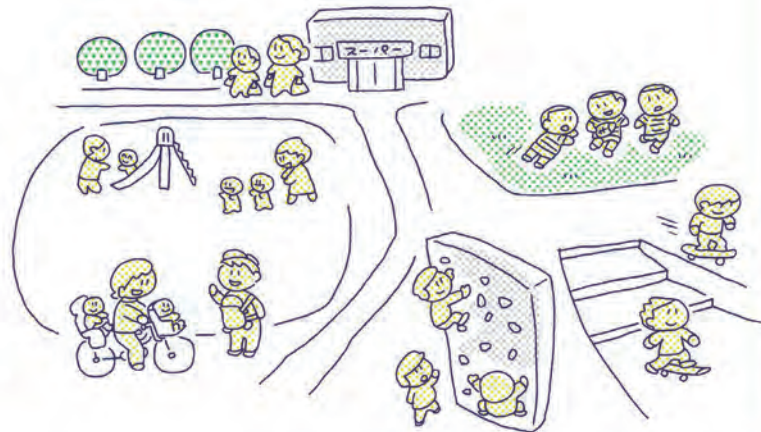
来街者もさることながら市民にとって住みやすい環境が整っている

① 子育てパーク

- ・子ども、学生の遊び場があり、子連れが休憩できる場所がある。
- ・安全に楽しく遊べる公園など、子育て文化を積み重ねられる拠点が形成されている。

② 住民ファーストな環境

- ・ストリート系スポーツ、ラグビーなど個性的なスポーツができる場所がある。
- ・日常の買い物ができる場所がある。
- ・広場などゆとりを感じられる場所がある。



(4) 地域別ワークショップの市民が描く未来像: 三鷹Aグループ

市民が描く
まちの未来像

三鷹 A グループ

《テーマ》

“歩いて楽しいまち”

見て楽しい、歩いて楽しいまち

建物・水・緑などの多様な風景の中に魅力的なお店が立地している

① 見て・体感して楽しい風景

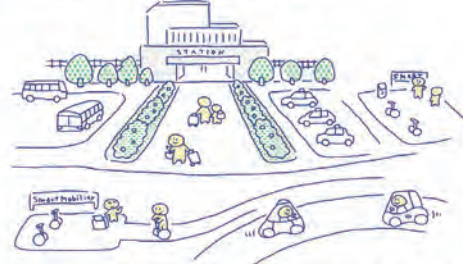


- ・建物は単調に連続せずに分節化され、その中にはシェアキッチンスペースや個性的で魅力的なお店が立地している。
- ・玉川上水や公園などの従来からの水と緑が守られ、ネットワーク化されている。

多様な交通手段が選択できるまち

行先や目的に応じて新しい交通手段も徒歩も選択できる

① 新旧モビリティが便利に使える



- ・バス、タクシー、自家用車、歩行者それぞれ使いやすい駅前広場がある。
- ・シティライド用の小型モビリティのポートが歩いて行ける距離に設置され、気軽に利用できる。
- ・小型モビリティ、自動運転車、歩行者がそれぞれ通行しやすい道路空間がある。

資源を活かして時代に合わせた使われ方がされているまち

文化施設などの地域の溜り場が柔軟に活用されており、施設外の活動に発展している

① 文化施設のユニークな使い方

- ・電子化された図書館 書庫の 余剰スペース を活用し、本だけではなく地域活動に必要なもの（テントなど）が借りられる、「ライブラリー」がある。
- ・旧赤星邸など、文化財としては認定されていない近代建築物など、地域の課題を解決するような施設（子育て施設など）として活用することで保全されている。



② 文化施設から活動がにじみ出す

- ・公園でパークライブラリーや音楽イベント、オープンカフェが実施されるなど文化活動が屋外にもにじみ出している。
- ・歩道上などの公共空間に、気軽に仕事や休憩ができる小さいスペースがある。

多様な人が多様なコミュニティ活動に参加するまち

自分たちの地域を自分たちで良くしようとする住民のコミュニティがある

① みんなで安心安全

- ・老若男女、国籍問わず 住民が 当事者意識 をもち地域の安心、安全な住環境の維持のために地域の防災活動に参加している。



(5) 地域別ワークショップの市民が描く未来像: 三鷹Bグループ

市民が描く
まちの未来像

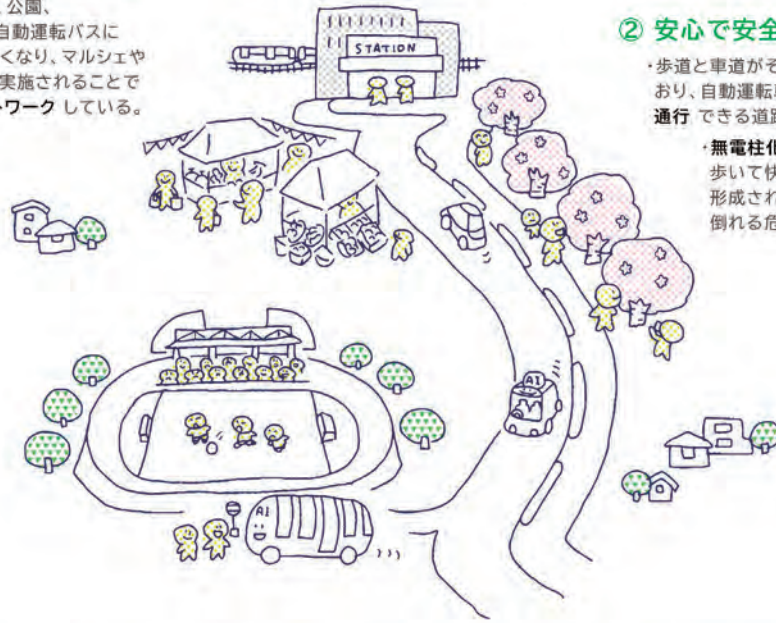
三鷹 B グループ

《テーマ》 “郷土愛”

安心・安全な道路空間がにぎわう場所をつなぐまち
にぎわいを生み出す場所が安全・安心な交通ネットワークを使って自由に行き来できる

① にぎわいのネットワーク化

- ・桜並木や駅前広場、公園、陸上競技場などが自動運転バスによりアクセスしやすくなり、マルシェやスポーツイベントも実施されることで賑わう場所がネットワークしている。



② 安心で安全なまち

- ・歩道と車道がそれぞれ整備されており、自動運転車も歩行者も安全に通行できる道路になっている。

- ・無電柱化により、見て美しく歩いて快適な歩行空間が形成され、災害時も電柱が倒れる危険がなくなっている。

人との交流を生み出す学びの場があるまち

朝のさわやかな時間を活用して、市民同士が交流しながら学び、学びを生かせる場所や機会がある



① 交流を生み出す空間

- ・朝活の促進により人が集まれる場所が創出され、住民間の自発的なコミュニティが形成されている。
- ・マルシェやマーケットにより人がつながる。

② システムを市民が使いこなせる

- ・子どもからお年寄りまでAIなどのIT技術を活用できるようになるための学びの場がある。
- ・多くの市民がIT技術を活用した活動や仕事を行っている。

(6)地域別ワークショップの市民が描く未来像: 武蔵境Aグループ

市民が描く
まちの未来像

武蔵境 A グループ

《テーマ》 “幸せな暮らし”

地域コミュニティの力で幸せな暮らし

プレイスやコミセンに世代を超えて人が集まり、地域のつながりが強くなっている

① プレイスがつなぐ地域の幸せ

- ・武蔵野プレイスやコミュニティーセンターなどの文教施設が、今以上に世代を超えて人が集まる場になっている。
- ・武蔵野プレイス前の芝生を活かしたイベント等が催され、地域のコミュニティ形成を促進させる施設として活用されている。
- ・文教施設が充実している環境が将来的にも継承されている。
- ・自習スペースが夜遅くまで利用できる施設になっている。
- ・性別や年齢に関係なく暮らしやすいインフラが整備されたまちになっている。
- ・利便性の高い公共施設が充実したまちになっている。



② 進化する地域行事

- ・地域のつながりが強まることで地域行事が活性化し、誰もが参加したい行事に進化している。
- ・自分たちのまちは自分たちでつくるという住民意識が定着している時代になっている。
- ・歴史や文化が継承されている。

安心して歩ける暮らし

無電柱化、バリアフリー、まちづくり的な空間活用でさまざまな人が利用しやすい道路になっている

① 道路のシェア

- ・歩道から電柱がなくなり、バリアフリーに配慮された歩きやすい空間になっている。
- ・子育て家族のサポートが多い歩道空間になっている。
- ・歩行者と自動車が完全に分離され、安心安全で利用しやすい道路になっている。
- ・自転車専用道路が設置され、自転車でも安心して移動できる道路になっている。



② 散歩したい沿道

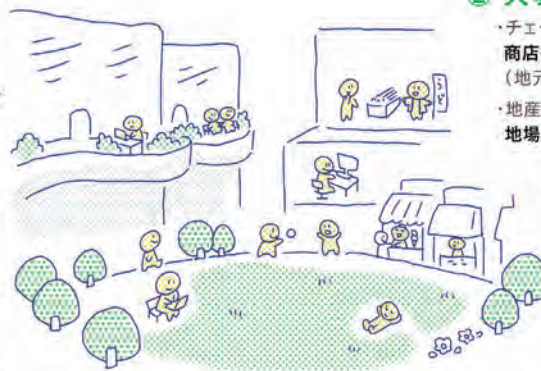
- ・道路沿道は、散歩ができる街並みが整備されている。

自由に働き楽しむ暮らし

新技術によって時間的余裕が生まれ、地域活動に参加しやすく、生活の新しい楽しみ方を見つけられるまちになっている

① 働き方や場所を自由に選べる環境

- ・働き方改革が進み、夢など幸せを追求する時代になっている。
- ・働き方改革で、会社のマインドも変化している。
- ・武蔵境 地域内にも仕事ができるようなカフェが多くできている。
- ・第二の武蔵野プレイスのようなテレワークができる場所が増えている。



② 大切にされる特徴的な商店街

- ・チェーン店でない特徴ある飲食店が商店街に集まり、大切にされている。(地元食材が楽しめる店、のんびりできる店など)
- ・地産地消で特産品の「うど」など地場産業が守られている。

③ 家族で過ごせる公園

- ・芝生や緑の多い公園が身近な場所にあり、スポーツを楽しんだりのんびり過ごしたり、家族団楽に欠かせない場になっている。
- ・公園で過ごす時間が増え、家族のコミュニケーションや子どもとの会話の機会が増えている。
- ・学校がのびのび遊べる場になっている。

(7)地域別ワークショップの市民が描く未来像:武蔵境Bグループ

市民が描く
まちの未来像

《テーマ》

武蔵境 B グループ

“さんぽが楽しい落ち着いたキャンパスタウン”

散歩で選ばれるまち

散歩したくなる道・沿道の街並み、散歩のためにアクセスしやすい駅前空間になっている

① 歩いて楽しい道

- 公園同士がつながり、ストーリー性のある歩いて楽しい道になっている
(玉川上水緑道、小金井公園、井の頭恩賜公園、武蔵野中央公園などがつながる)

② 景観が良く気持ちのいい沿道

- 歩行者が増加して、沿道に地元の農産物販売店舗やカフェができている
- 散歩道沿いは個人住宅のガーデニングで彩られている。景観が良く、散歩したくなる気持ちの良い空間になっている。
- 野川公園の近くに新駅ができ、野川公園を散歩しやすくなっている。



③ 散歩に行きやすいアクセス環境

- 駅前でピックアップし、散歩を行えるような仕組みづくり(シェアサイクルやカーシェアなど)
- 石油資源や大気汚染などの環境問題に配慮しレンタルを行う
⇒車については数台をシェアできるようにする

④ 散歩中に憩える空間

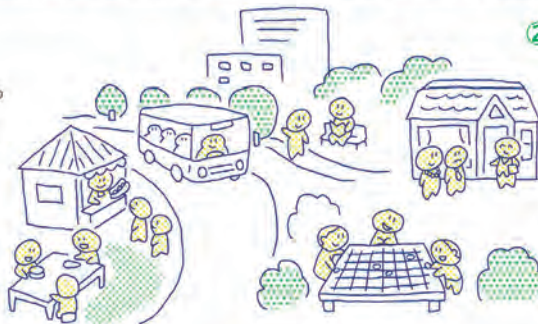
- 散歩道の沿道にベンチやオープンカフェがあり、憩いを楽しめる散歩道になっている

大学生が活発に活動するキャンパスタウン

スイングロードの風情ある街並みと大学生が活動するキャンパスタウンが融合し、年齢に関係なく楽しめるまちになっている

① 大人も楽しいキャンパスタウン

- スイングロードは、けやき並木や美しい街並みを見ながら、オープンカフェで憩えるような風情あるまちになっている。
- 学生街のB級グルメ店と大人向けの美味しい店があり、年齢関係なく楽しめるまちになっている。



② 学生と市民が一緒に楽しめる環境

- 武蔵境駅を利用する5大学の大学生と市民が交流するキャンパスタウンになっている
- 大学の存在をアピールする空間
大学生が活動できる空間
- 音楽や囲碁・将棋などで大学生と市民が交流する空間
- サブカルチャーの情報を発信する空間

新技術により生まれる余剰時間を有効に使えるまち

新技術によって時間的余裕が生まれ、地域活動に参加しやすく、生活の新しい楽しみ方を見つけられるまちになっている

① 活動時間を地域活動の時間に

- 5Gの普及によって在宅ワークが可能になり、通勤時間がなくなる。
- 生活に時間的余裕が生まれ、清掃活動などの地域活動に参加できるようになる。



③ My電子掲示板で地域とつながる

- 各家庭に電子掲示板が普及し地域行事の知らせが届くようになる。口コミのような広報(顔写真などを掲載し参加を呼び掛ける)が実現し、地域活動への参加率上がっている。
- 地域との絆を結ぶため「向こう三軒、両隣」へのあいさつは、将来的にも重要なものになっている。

② 余剰時間をニュータイプの複合施設で楽しむ

- 老人ホームや幼稚園、保育園、図書館、博物館などの機能が含まれる複合型公共施設で余暇を楽しむ人が増えている。生活の中での新しい楽しみ方になっている。
- 多世代や大学生ともふれあいが増え、核家族や孤食などの現代社会の問題が解決されている。
- 交流を通じて、どんとやきなどの地域の伝統や文化が、高齢者から若者へ継承されている。
- 参加型博物館を拠点とした共同調査(地域の人が交流できる博物館である平塚の事例を参考)

(8)出張座談会・意見募集箱の市民が描く未来像に関する意見概要①

市民が描く
まちの未来像

出張座談会

出張座談会の市民が描く未来像に関する意見概要①

自然環境の保全

都市の中であっても自然環境が守られる仕組みとなっている

① 自然環境・水循環の保全

- ・自然な状態での(自然環境としての)“緑”の保全
- ・玉川上水、境山野緑地など自然環境が維持管理され、守られているまち
- ・武蔵野のアイデンティティである雑木林の保全、更新
- ・民有地の雰囲気がいよ、大きな木が守られる仕組み

③ 都市の緑・生物多様性の保全

- ・空が見えるまち、空の広いまち
- ・農地と住宅が20年後も残っているまち
- ・都市農地が持続され、市内野菜が地産地消されるまち
- ・小さな公園のみならず、様々な活用ができる公園のあるまち
- ・公園の整備だけでなく、隙間地の緑地活用など、目に見える緑を増やす取り組み

② 再生可能エネルギーの活用

- ・再生エネルギー活用の視点も持ったまちづくり



快適で暮らしやすいまち

歩いて楽しく、武蔵野らしい店舗等と住宅地の調和がとれたまちになっている

① 子育てしやすいまち

- ・子どもが住み続けたいと思えるようなまち
- ・子どもが外で安心して遊べる環境
- ・子どもを街ぐるみで育てる環境
- ・家族連れで入れるお店



④ 住んで楽しい、訪れて楽しいまち

- ・チェーン店ではない商店と住宅地の調和のとれたまち
- ・来街者と住民の利便性が共存するまち
- ・ゴミがなく清潔なまち

② 安心・安全なまち

- ・避難所の防災対策
- ・電線は地中化されており、災害リスクが少ないまち
- ・歩車分離され、歩行者も自転車も安心して通行できる人(人に優しい)のまち
- ・増加する高齢者に対応したバリアフリーなまち

③ 歩いて楽しいまち

- ・歩いて食材や日用品が買える店がある環境
- ・公共施設へのアクセスが確保され、自動車との接点が少ないまち

⑤ 先端技術を活用した時代に合ったまちづくり

- ・移動図書館や施設の複合化、ITを活用した、本の返却利便性の向上
- ・日常的に充電できるスポットをまとめたマップ

持続可能な財政の仕組み

多世代が共存し、持続可能なまちになっている

① 新たな仕組みの活用

- ・まちづくりファンドの検討



② 持続可能なまちづくり

- ・公共施設や公有地での収益性も考えた仕組みづくり
- ・生産年齢人口が減少し、高齢者人口が増加しても高齢者が住み続けられるまち

出張座談会・意見募集箱の市民が描く未来像に関する意見概要②

市民が描く
まちの未来像

出張座談会

出張座談会の市民が描く未来像に関する意見概要②

にぎわいのあるまち

公共空間などを活用して魅力的な空間を創出し、市内外から人が訪れることでにぎわいのあるまち

① まちのシンボルとなる施策

- ・まちのシンボルとなるような施策があり、それに向かって輝くまちづくり

② 文化や歴史の継承

- ・多様な文化が集積しワクワクするまち
- ・“都市文化”を守るための条例や補助金の創設
- ・「月見小路」、「青葉小路」など通りの名称など、歴史・文化の保全



③ 多様な店舗のかたち

- ・駅から離れた商店街の活性化
- ・「安く買える店」、「高価なもの店」、「セレクトできる店」がバランスよいまち

④ 公共空間の活用

- ・景観が整った駅前空間
- ・来街者にとっても魅力がある公園のあるまち
- ・限られた都市空間の中で、公共空間が活用されるまち
- ・様々な地域活動がみられ、魅力的で賑わいのあるまち
- ・大規模なコンサートホールのあるまち
- ・各コミュニティセンターなどを核に、地域性を追求したまち

誰とでもコミュニケーションがとれるまち

活発なコミュニケーションにより、様々な人で構成されたコミュニティが形成されている

① 協働のまちづくり

- ・ボランティアに参加したくなる仕組み
- ・一緒に学んで市政に参加できるまち
- ・行政だけでなく、市民が様々なサービスを提供するまち

② 一人ひとりが活躍できる場づくり

- ・お年寄りがイキイキと暮らせる場所や施設があるまち
- ・障害者、健常者の区別なくコミュニケーションが取れる社会
- ・障害者が活動・活躍できるような一般地域活動との連携



③ 様々な人との交流

- ・人と出会ったときにあいさつ、ふれあいができるまち
- ・子どもと高齢者の交流を促進する環境
- ・地域のみんなで子どもやお年寄りの見守り、声掛けができるような関係
- ・手話通訳や文字チャットなど、様々な人とつながるツールを有する公共施設
- ・各世代が集まれる仕組みがあり、活発な近所づきあいができるまち

市民が描く
まちの未来像

意見募集箱

意見募集箱の市民が描く未来像に関する意見概要

① 危険箇所等の周知

- ・吉祥寺南口は旧耐震のビルが混在しており、地震で倒壊の恐れがあるので危険を周知した方がよい。

② 敷地の高次的利用

- ・吉祥寺駅周辺において、狭小な敷地では駐車場やエレベーターを建物ごとに設置することは非効率。建て替えが進まない要因でもあるので、共同化できると良い。

③ 様々な世代の交流

- ・地域で声を掛け合い、子どもやお年寄りを見守れるまち
- ・60代・70代の方が日中イキイキと暮らせる場所や施設があるまち

④ 子どもも楽しめるまち

- ・子どもが外で遊びたくなるような（禁止事項が少ない）緑や公園があるまち

⑤ 武蔵野らしい環境づくり

- ・駅から離れた商店街・個人店が活発なまち
- ・警察と連携して道路を歩行者中心にして、地域の工夫により賑わいややすさがあるまち
- ・コミュニティや魅力発信に注力しすぎると混雑した生活ににくいまちになってしまうのではないかと
- ・使われないハード整備ではなく、ハードが使われる仕組みづくりが必要

(9) 既往調査の市民が描くまちの未来像に関する意見概要

市民が描く
まちの未来像

既往調査

既往調査のまちの未来に関する意見

様々な交流のあるまち

今後もさらに増加が見込まれている高齢者をはじめとした、様々な世代間での交流によるにぎわいのあるまち

① 高齢者も楽しめるまち

- ・高齢者の移動が困難であるという不安を抱いている。
- ・高齢者福祉の充実
- ・心身ともに健康でいられるまち
- ・気軽に外出することができる交通手段が求められている。
- ・バリアフリーなまち



② 様々な世代の交流

- ・互いに住みやすいまち
- ・外国人とも交流できるまち
- ・地域内で交流することで、住みやすい環境をつくる。
- ・若者にとって、自由度が高く気楽に活動できるまち
- ・中高生の居場所があるまち

安全・安心で暮らしやすいまち

武蔵野らしい景観を維持し、特色を活かしたまちづくりが求められている



① 安心・安全なまち

- ・空き家や老朽化マンションの再生に向けた支援が期待されている。
- ・一時避難場所や、公共避難所の崩れが不安視されているため対策が求められている。
- ・震災対策として、道路下の空洞への対応が求められている。
- ・災害や危機に強いまちづくり

② 暮らしやすいまち

- ・観光客よりも住民を増やすような取り組みをしてほしい。
- ・生活環境問題
- ・子育て支援

③ 歩いて楽しいまち

- ・歩きやすい道の整備が期待されている。
- ・歩道の整備や道路の拡充が求められている。
- ・バス停の拡充が求められている。
- ・交通環境・道路整備
- ・自転車対策や駐輪場の整備が求められている。



まちの活力・魅力の向上

武蔵野らしい特色を活かしたまちづくりが求められている

① 緑の保全

- ・まちの魅力向上のため、緑の保全が求められている。

② 農地の活用

- ・地産地消の継続が期待されている。
- ・生産緑地の制度変更による緑の減少が不安視されているため、更なる検討が求められている。



③ 景観に配慮したまち

- ・美しい街並みの保全が期待されている。
- ・景観の維持が求められている。

④ 3駅の特徴の活用

- ・3駅それぞれの特徴を活かしたまちづくりが期待されている。

(10) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する意見概要

「市民が描く未来像」は、コロナ禍の前に市民参加でとりまとめたため、市民団体や商業者、事業者等を対象に、コロナ禍に起因する生活の変化や、中長期的に求められる都市空間について意見交換を行いました。

■主な意見

| 項目 | 内容 | |
|---------|--|--|
| 未来像 | <ul style="list-style-type: none"> ● 今後は地域活動もまちづくりも画一的であったり、使命感にもとづいたりするのではなく、個々人の意識や共感によって取り組まれることが重要になるのではないかと。 | |
| 土地利用 | <ul style="list-style-type: none"> ● 過密を避けるため、ゆとりのある空間が必要。 ● 公共施設以外の活動空間の確保が重要。 ● 医療や福祉施設に隣接するオープンスペースを検査所等に活用できると良い。 ● 正しい情報を得るため、対面で情報交換ができる場が必要。 | |
| 住環境 | <ul style="list-style-type: none"> ● コミセンが閉鎖されたことにより高齢者の居場所がなくなった。非常時の健康な高齢者の居場所を考える必要がある。 | |
| 道路・交通 | <ul style="list-style-type: none"> ● 密を回避するため飲食店の外（道路等）で飲食可能な空間が必要。 ● 自転車の走行空間整備が必要。 ● 配達目的の自転車が増加しており、地域のルールを決める必要がある。 ● 路線バスなどの公共交通事業は、会社員や大学生のリモート化が進んでおり、新型コロナウイルスの感染拡大前に戻ることはないという前提で事業を進める必要がある。 | |
| 緑・水・環境 | <ul style="list-style-type: none"> ● 住宅地の公園や少し規模の大きい公園の重要性が高まっている。 ● テレワークの浸透で多世代・多目的な公園利用を想定する必要がある。 | |
| 防災 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルスを踏まえた避難所の設置の仕方も重要。 ● 緊急時の物資の不足に備え、市外への依存を減らせる工夫が必要。 ● 地域と協力して地産地消で供給できる仕組みが必要。 | |
| にぎわい・活力 | オフィス空間 | <ul style="list-style-type: none"> ● 今後はオフィス面積の縮小なども検討課題となる。 ● オフィスが都心から離れる傾向にあるので、コワーキングスペース*やサテライトオフィス*の需要を市内に取り込めると良い。 |
| | 商業 | <ul style="list-style-type: none"> ● ネットで買い物を済ませる人も増え、商業地は物販だけでなく余暇を楽しめるような魅力ある空間となることが重要。 ● 高齢者のための移動販売があると良い。また、移動販売車を停車するスペースについて仕組みがあると良い。 |
| | 活力 | <ul style="list-style-type: none"> ● 駅周辺をはじめ、会社員や大学生が減りにぎわいや交流がなくなった。 ● テレワークの定着により現役世代が地域に定着し、まちを良くしていこうと思う人が増える期待が持てる。 ● 今まで地域と関わりのなかった人が関われる仕組みがあると良い。 |